

種痘啓発の引札 (チラシ)



佐賀県立図書館蔵「種痘之図」(三井元圃種痘所発行)



翻刻文(※句読点を一部補っている)

痘瘡の神^①とハ誰か名付けけん 中山道吹上在^②
 悪魔外道のたよりなすもの 新宿村^③
 ほうさうをうへ初しハ、もろこし宋の仁宋の時也。こ
 れハ鼻へ入るゝ法なり^④。其外うへやう五通りあり。
 (A) 牛痘法は一ばんすぐれてよろし。

寛政年中(B) おらんだにて「イン子ル」^⑤といふ人、
 始て見ひらきたり。其はじめハ牛をやしなふ家、必ずほ
 うさうせず。或牛の乳房にほうさう三粒はつせしあり。
 其うみをとつて、小児にうつし見るに、うつせし手にの
 ミ五六粒出来て、外へ出ることなし。不思議の事に思ひ、
 亦人のほうさうを其子にうつるといへども、更に発るこ
 となし。(中略)

世の中にこれ程たうたき法なし。夫れゆゑ此種を四五
 年前^⑥より阿らんだ人自まんにて、何よりの土産とて
 度々持きたれども、気が抜けて用にならず。

やう／＼去冬、ある大廣^⑦の御骨折にて、御取よせあ
 りて、姫君へうつさせられしより、世に弘まりしハ、人
 の親の幸ひ、子たるものゝ仕合、此うへやあるべき。世
 の人よくまよひを去て、早く安堵の思ひを為こそ、うへ
 なき幸ひならんかし。

親の苦もぬけてたのしむみどり子の
 千代の命をむすぶたうとき 三井元圃接痘所^⑧

生徒への問いかけ

- 問1 このチラシに描かれている絵は、何を表しているのだろうか。
- 問2 傍線部(A)とはどのような方法か。文章から読み取ろう。
- 問3 傍線部(B)は「イギリスにて」の誤りである。なぜそのような誤りが起こったのか、考えてみよう。
- 問4 ジェンナーが牛痘による種痘を発表してから、日本に伝来するまで50年以上もかかっている。それはなぜだと思うか。
- 問5 西洋からもたらされた新しい技術である種痘を大衆に普及させるために、この引札にはどのような工夫が感じられるか。絵と文章の両方をふまえて考えてみよう。

読解のヒント

- ①痘瘡の神…天然痘をつかさどる神。この病をまぬがれ、軽くするために信仰の対象とされた。
- ②中山道吹上…五街道の一つ中山道沿いに発達した宿場町。現在の埼玉県鴻巣市。
- ③新宿村…吹上の西側にあった村。東京都の「新宿区」とは別。
- ④鼻へ入るゝ法…牛痘による種痘が普及する以前の天然痘の予防接種の1つ。天然痘患者に生じたかさぶたの一部を未感染者の鼻から吸引させて、人工的に免疫を獲得させる方法。しかしまれに重症化することがあり、接種された人が他人にうつす可能性もあるなど、安全性は十分ではなかった。
- ⑤イン子ル…エドワード・ジェンナーのこと。1798年に牛痘による種痘を発表した。
- ⑥四五年前…「四五十年前」の誤りと思われる。
- ⑦大廣…「大侯」の誤りで、佐賀藩主鍋島直正のこと。1849年8月に牛痘苗が長崎に到着すると、10月には息子の淳一郎に牛痘接種をさせた。同年12月には江戸にいた娘の貢姫にも接種させた。
- ⑧接痘所…種痘を行う施設のこと。幕末に全国各地に作られた。1849年11月に緒方洪庵が大坂で開設した「除痘館」や、1858年に伊東玄朴らによって開設された「お玉ヶ池種痘所」(東京大学医学部の前身)が有名。資料中の「三井元圃」がいかなる人物は不明である。

出典

佐賀県立図書館蔵「種痘之図」(三井元圃種痘所発行 作成年代不明)

(「佐賀県立図書館データベース」<https://www.sagalibdb.jp/kaiga/detail/?id=28>で画像閲覧・DL可能)

※本資料の元となった引札は、江戸の小児科医の桑田立齋によって1850年1月につくられたものとされる。この他にも大坂の除痘館版など、同様な構図の引札が全国各地の種痘医によって発行されている。

参考文献

- アン・ジャネット(廣川和花・木曾明子訳)『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国際ネットワーク』岩波書店、2013年
- 添川正夫「牛痘接種法奨励の版画について」(『日本医史学雑誌第30巻1号』、1984年)
- 伊藤恭子編著『くすり博物館収蔵資料集4 はやり病の錦絵』(内藤記念くすり博物館、2001年)